

English Wind

小学校全教職員及び

中学校英語科担当教員配布

英語教育の



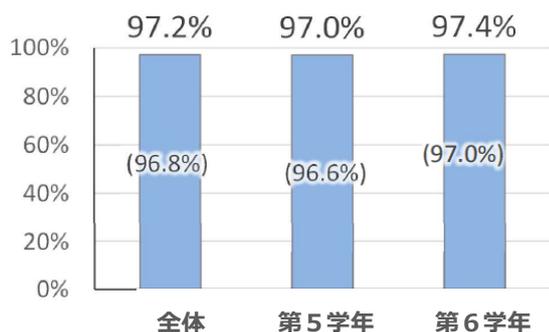
1 パフォーマンステストについて ~令和4年度 英語教育実施状況調査結果より~

第24、25号では、令和4年度英語教育実施状況調査の結果より、「生徒と教師の英語力」「言語活動の状況」について取り上げました。今号では、「パフォーマンステストの実施状況」について本県の状況をお知らせします。

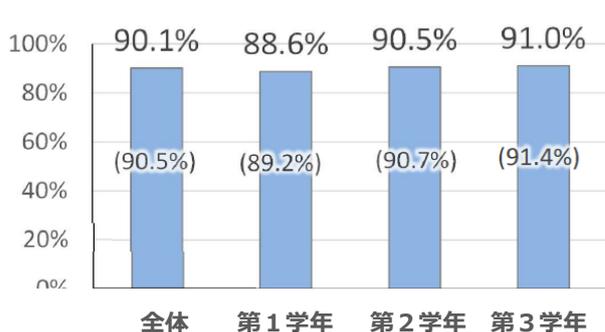
パフォーマンステストの実施状況

- 小学校では、「話すこと」を評価するためのパフォーマンステストを実施している割合は97.2%と、ほぼすべての小学校で実施されている。
- 中学校では、「話すこと」「書くこと」のパフォーマンステストを両方とも実施している割合は、90.1%となっている。

全 国【小学校】



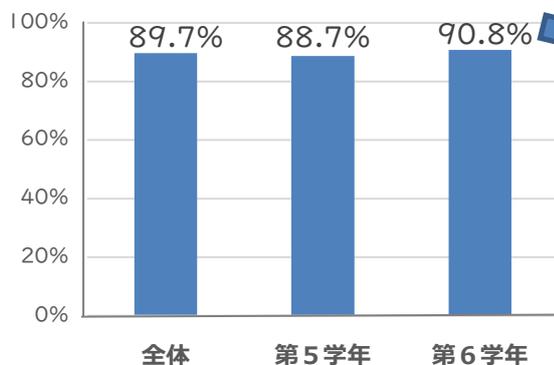
【中学校】 ※グラフ () 内は令和3年度の割合



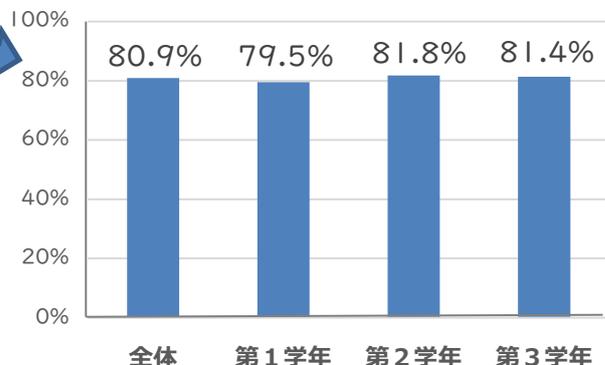
令和4年度「英語教育実施状況調査」概要より、小中学校に関する箇所を抜粋

上記グラフは全国の結果です。福島県の結果は下記のとおりとなります。

福島県【小学校】



【中学校】



「話すこと」「書くこと」を両方実施している学校の割合

結果を見ると、全国においても福島県においても、小学校のほうが実施している割合が高く、中学校では低くなっていることが分かります。小学校ではパフォーマンステストによる評価が定着しつつあると考えられます。しかし、福島県の結果を見ると、小学校では約10%、中学校では約20%の学校がパフォーマンステストを実施していないことになります。「話すこと」については、児童生徒が実際に話さないと評価することができません。児童生徒の話す力を適切に評価するためにも、パフォーマンステストの計画的かつ着実な実施が求められます。

2 パフォーマンステストとは

パフォーマンステストとは、実生活や実社会の課題に似せた場面や状況を設定し、その解決のために知識や技能を活用する姿、またはその場面で記された英作文やレポート等から評価を行う作品を指します。小学校外国語科では、プレゼンテーションやインタビュー、中学校外国語科ではスピーチ、エッセイなどで「話すこと」「書くこと」の学習状況を見取ることができます。「小学校外国語教育の指導と評価」（直山木綿子監修、文溪堂）には、パフォーマンステストの評価を行うことの長所が3つ書かれています。

① 児童生徒が英語を用いた「本物」のコミュニケーションを体験することができる。

普段は児童生徒がALTと向き合って話す時間を取ることは難しいですが、パフォーマンステストでは可能です。学習したことを試す「本物」のコミュニケーションを体験する評価場面となり、児童生徒の学習意欲を高める良い機会にもなります。

② 児童生徒全員を対象に、個々の到達状況を見取ることができる。

授業中の行動観察では、児童生徒を同一の状況下で評価することが難しいですが、パフォーマンステストでは可能です。ルーブリック（評価基準）を用いることや、パフォーマンスを録画し、同じルーブリックを用いて複数の教師で評価することで評価の妥当性や信頼性をさらに高めることができます。

③ 生きて働く「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点を児童生徒の姿から見取ることができる。

授業中の行動観察やペーパーテスト、ワークシート等だけでは見取りにくい3観点から、資質・能力がバランス良く育成されているかを評価することができます。



3 パフォーマンステストにおけるICT活用について

授業におけるタブレット端末やデジタル教科書の使用について、効果的な場面で目的に応じた活用が求められています。英語の学習と同じように、「使いながら習得していく」気持ちで使ってみてはいかがでしょうか。

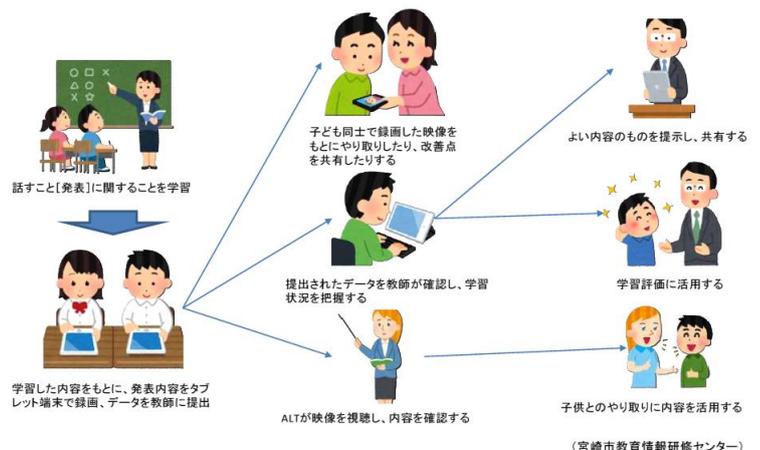
パフォーマンステストにおいても、プレゼンテーション作成、録画や記録などで活用できます。また、パフォーマンステスト前後の待ち時間における使用についても、教科書のモデル文を再生しての確認、練習や振り返り、ドリル学習など、様々な活用方法が考えられます。文科省から発行されている「外国語の指導におけるICTの活用について」には、パフォーマンステスト実施に関する事例も掲載されております。ぜひ参考にしてみてください。

【言語活動・練習】 発表ややり取りをする活動

小学校

発表をタブレット端末で共有し、振り返り・学習評価に活用する取組

発表内容を録画し、学習評価や生徒へのフィードバックを含めた様々な用途で活用することができる。



「外国語の指導におけるICTの活用について」は

こちら 

